

中学校外国語科学習指導案

広島県立教育センター
指導主事 吉本 由佳

I 本單元における単元構想の工夫について

1. 領域の設定、単元構想について

本単元は、中学校学習指導要領（平成29年告示）第2章 第9節 外国語 第2 各言語の目標及び内容等 1目標 (2)「読むこと」ウ「社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。」及び (5)「書くこと」ウ「社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。」を踏まえて設定している。また、「読むこと」と「書くこと」の領域を関連付ける統合的な言語活動を設定している。具体的には、人々の考え方や生き方に関して読んだことから把握した内容に基づき、自分の考えや気持ちなどを書く言語活動を設定している。

本単元では、「読むこと」の言語活動の指導に重点を置いている。この言語活動における学習過程は、生徒が概要や要点を捉えると同時に、伝えたい自分の考えや気持ちを形成する過程でもあると考えるからである。したがって、評価規準は「読むこと」で設定している。生徒が要点を捉えることができたのか、自分の考えや気持ちを形成することができたのかについては、書くことで可視化して見取ることとする。なお、書いた内容の適切さや正確さについては記録に残す評価は行っていないが、より相手に伝わりやすく書くことの指導は行っている。実際の授業においては、「書くこと」の評価規準を設定することも考えられる。

2. 主体的な学びを实践するための手立てについて

(1) 個別の学びと協働的な学びを一体的に充実させるために

教科書の本文を扱って一斉指導で授業を行う場合は、全員が同じテーマ（将来の夢など）を読み取り、それに対して自分の考えなどを表現することが一般的である。しかし、そのテーマに興味・関心がない生徒は、主体的に学習に取り組むことができないこともある。生徒が自分の興味・関心に応じた読み物を選択して読み、その中から読み取った筆者の主張をテーマとして自分の考えを書くことで、主体的に書く活動に取り組むことができると考える。そのため、本単元では、教科書を扱わず、生徒自身に何を読むかを決定させている。

生徒が自分の興味・関心に応じた読み物を選択して読んだり、読んだ内容からテーマ設定をしたりする過程に「個別の学び」を位置付ける。また、読んだ内容に対する自分の意見を伝え合ったり、質問やコメントを述べ合ったりする過程に「協働的な学び」を位置付ける。

「個別の学び」の過程で、生徒はそれぞれ異なる考えを形成しているため、「協働的な学び」の過程において、自分の意見について相手に伝えたり、相手の意見を知ろうとしたりする必然性が生まれることに意義がある。

(2) 多様な生徒に資質・能力を育成するための手立てについて

評価規準の「要点を捉えている」とは、読んだ内容を話したり書いたりして説明することができる状態であると考えられることから、ペアやグループで伝え合っている内容や、書いた内容から学習状況を見取り、つまづきに応じた手立てを講じることでゴールに到達させる。全員の到達度を確実に把握するのは、第6時のパフォーマンステストの機会とする。

多様な生徒に資質・能力を育成するために、何を読むかについては生徒自身に選択をさせる。その際、二つの手立てを講じる。一つは、教師が用意した、比較的要点を読み取りやすい資料の中から、生徒が自分の興味・関心に応じた読み物を選択する手立て（以下、【手立て①】という。）と、もう一つは、教師が用意した資料ではなく、生徒自身が自分の興味・関心に応じた資料を検索し、その中から選択する手立て（以下、【手立て②】という。）を講じる。このような手立てを講じることで、個々の資質・能力を伸ばしつつ、生徒全員が単元の目標として示したゴールに到達できるよう指導を工夫している。

II 単元計画

1 対象

中学校第3学年

2 単元名

「書き手の主張を捉え、自分の考えや気持ちなどを伝える」

3 使用する教材

読み物教材、ワークシート、デジタル機器

4 設定する言語活動

・「読むこと」

人々の考え方や生き方に関する説明や記事、スピーチの英文などを読んで、書き手の主張を捉える活動。

・「書くこと」

人々の考え方や生き方に関して読んだことから把握した内容に基づき、自分の考えや気持ちなどを書く活動。

5 単元の目標

よりよく生きるために必要なことについて自分の考えを伝えるために、人々の考え方や生き方に関する英文を読んで要点を捉えるとともに、その内容を基に、考えたことや感じたことなどを伝え合ったり、意見文を書いたりすることができる。

6 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
読むこと	・これまでに学習した言語材料の特徴やきまりを理解している。 ・これまでに学習した言語材料の特徴やきまりの理解を基に、人物の生き方について書かれた文章の内容を読み取る技能を身に付けている。	よりよく生きるために必要なことについて書かれた英文を読み、自分の意見や考えを伝えるために、英文の要点を捉えている。	よりよく生きるために必要なことについて書かれた英文を読み、自分の意見や考えを伝えるために、英文の要点を捉えようとしている。

7 多様な生徒に資質・能力を育成するための手立て

	【手立て①】	【手立て②】
課題設定の方法	教師が用意した複数の読み物教材の中から、自分の興味・関心のある人物の考え方や生き方について書かれた英文を選択し、読み取った書き手の主張（要点）をテーマとして、自分の意見を書く。	よりよく生きることに関連した話題について書かれた記事や本、スピーチの英文などを検索し、その中から自分の興味・関心のあるものを選択する。読み取った書き手の主張（要点）をテーマとして、自分の意見や考えを書く。
設定する課題	よりよく生きることに関連した話題について読んだ内容を基にテーマを設定し、自分の考えや感じたことなどを書く。（テーマの例：「無償の親切」「あきらめない心」「一期一会」「ハングリー精神」など）	

<p>課題設定する際の指導上のポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援サイト等を活用して、中学生にとって長すぎない分量で、比較的、要点を読み取りやすい読み物教材を用意する。 ・教師が用意した読み物教材をどのように選べばよいか迷っている生徒には、対話をしながら生徒の興味・関心に近いものを複数提示し、最終的に自分で選ばせる。生徒の能力によっては【手立て②】を勧める。 	<p>生徒が選択する読み物は、インタビュー記事やスピーチなどの様々な形式の文章や未習の表現が多く含まれた長い文章などになると想定される。また、要点が明示的に伝えられてないものもあるため、それぞれの形式に沿った、読み方を指導する。</p> <p>(例) インタビュー記事であれば、質問に対する答えの中から、その人物が最も伝えたいことを読み取る。スピーチであれば、繰り返し述べているキーワードやキープフレーズから読み取る。</p>
-------------------------	---	---

8 多様な生徒に資質・能力を育成するための指導と評価の計画

(1) 【手立て①】について 【一斉】：一斉指導 【協】：協働的な学び 【個】：個別の学び

時	主な学習活動	手立てを考える際、想定している生徒の姿	指導上の配慮事項	知	思	態
1 2	<p>○学習のゴールを確認し、見通しをもつ。【一斉】</p> <p>○教師の説明から概要を捉える際のポイントを理解する。【一斉】</p> <p>○教師が用意した読み物教材の中から、自分の興味・関心のある人物や尊敬する人物の考え方や生き方について書かれたものを選んで読む。【個別】</p> <p>・文章の概要を読み取り、読み取った内容をワークシートに書く。</p> <p>・一語一語や一文一文の意味など特定の部分にのみとらわれないように、最初から最後まで読む。</p>	<p>・英文の分量や使われている語句の難易度で選ぶとしている。</p> <p>・どの読み物教材にすればよいか決めることができない。</p> <p>・各段落の英文をそのまま並べて書いており、概要を把握しているかを見取ることが難しい。</p> <p>・おおまかな内容を捉えることが難しく、一文一文の意味を確認しようとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよく生きることに関連した話題について、何を読むかは、自分で決定することを知らせる。 ・単元の終末に自分の意見を書くことを意識させ、自分の興味・関心のある内容のものを選ぶよう促す。 ・生徒と対話をしながら、興味・関心に近いものを複数提示し、生徒本人に決めさせる。 ・文章の内容に応じて、時系列に出来事と書き手の考えなどをキーワードで整理させたり、ストーリーの流れをイラストで描かせたりする。 ・一文一文の意味が分からないと不安を感じる生徒には、全文を和訳することを許容し、ノートなどで個別に指導する。個別の指導を通して、段階的に大まかな内容を把握する技能を身に付けられるよう指導する。 			
3	<p>○本文を読んで、書き手の主張（要点）を捉える。【個別】</p>					

記録に残す評価は行わないが、文章の概要や要点を読み取れているかについて、学習状況を確認に見届けて、指導に生かすことは行う。(第一時〜第三時)

	<ul style="list-style-type: none"> 教師の説明から要点を捉える際のポイントを理解し、本文を読む。 書き手が最も伝えたいことは何かを考えながら読む。 書き手の主張(要点)だと判断した根拠となる英文と判断した理由をワークシートに書き出す。 書き手が最も伝えたいことは何かを判断する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事実と書き手の考えを区別して読むことができない。 根拠となる英文を複数挙げており、書き手の主張を整理して読み取ることができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 事実と書き手の考えを区別して、色線を引かせたり、結論等を表す語句 (So, Therefore, It's important to～. など) に着目させたりする。 それぞれの文章構成の特徴に応じて、要点の読み取り方を指導する。(例) *タイトルから予想させる。 *段落にタイトルを付けて比較させる。 ワークシートの記述を基に、個別に生徒と対話を行い、要点を整理する。 		
4 5	<p>○書き手の主張(要点)をテーマとして自分の考えなどを書く。【個別】</p> <p>○ペアになり、自分が読んだ内容と自分の考えや気持ちなどを伝え合う。【協働】</p> <ul style="list-style-type: none"> 質問したりコメントを述べ合ったりする。 教師からのフィードバックやペアでやり取りした 	<ul style="list-style-type: none"> “I think trusting myself is important.” などのように、自分の考えや気持ちだけを書いている。 書いた内容にまとまりがなく、相手に伝わりにくい文章になっている。 読んだ内容を要約して伝えることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや気持ち以外に何を伝えたら、説得力のある文章になるかを生徒に考えさせる。(全体で共有) (例) *書き手の主張の根拠となる英文を引用させたり、内容に言及させたりする。 *自分の経験と関連付けさせる。 書き手の主張(要点)に対する自分の考えなどを、英文を引用したり内容に言及したりしながら書くように指導する。 必要に応じて、ひな形を与えるなど、「書くこと」の活動に対するつまずきを極力軽減する手立てを講じる。 (ひな形の例) I think _____ because _____. 読み手により伝わりやすくするために、どのような順番で書いたらよいかを生徒に考えさせる。 事実や考えなどを整理しながら説明するように指導する。 生徒が本文の要点を捉えて自分の考えを書くことができているかを評価し、フィードバックを行う。 	<p>記録に残す評価は行わないが、文章の要点を読み取れているかについては記録に残す評価は行わないが、より相手に伝わりやすく書くことの指導は行う。</p> <p>記録に残す評価は行わないが、文章の要点を読み取れているかについては記録に残す評価は行わないが、より相手に伝わりやすく書くことの指導は行う。</p>	

本時案に「想定されるつまずき」と「指導の具体」の詳細あり。

記録に残す評価は行わないが、文章の要点を読み取れているかについては記録に残す評価は行わないが、より相手に伝わりやすく書くことの指導は行う。

	内容を参考に推敲し、書いた内容を改善する。					
6	パフォーマンステスト ○初見の文章を読み、筆者の主張(要点)を捉え、自分の考えなどを書く。 ・初見の文章を、第3, 4時で学習した読み方で読み、要点を捉える。(ワークシート) ・第5, 6時で学習した表現方法で、自分の考えや気持ちを書く。	評価規準【観点】(評価方法) ・これまでに学習した言語材料の特徴やきまりを理解している。 ・これまでに学習した言語材料の特徴やきまりの理解を基に、人物の考え方や生き方について書かれた文章の内容を読み取る技能を身に付けている。【知技】(ペーパーテスト) ・よりよく生きるために必要なことについて書かれた英文を読み、自分の意見や考えを伝えるために、英文の要点を捉えている。【思判表】(ワークシート) ・よりよく生きるために必要なことについて書かれた英文を読み、自分の意見や考えを伝えるために、英文の要点を捉えようとしている。【主学態】(活動の観察及びワークシートと振り返りシートへの記述内容)			○	○
後日	ペーパーテスト				○	

(2) 【手立て②】について 【一斉】: 一斉指導 【協】: 協働的な学び 【個】: 個別の学び

時	主な学習活動	手立てを考える際、想定している生徒の姿	指導上の配慮事項	知	思	態
1 2	○学習のゴールを確認し、見通しをもつ。 ○教師の説明から概要を捉える際のポイントを理解する。【一斉】 ○自分の興味・関心のある人物や尊敬する人物の考え方や生き方について書かれた記事や本、スピーチの英文などを検索して読む。 ・文章の概要を読み取り、読み取った内容をワークシートに書く。 ・一語一語や一文一文の意味など特定の部分にのみとらわれな	・書き手の主張が含まれておらず、事実の羅列になっているような英文を選択している。 ・未習の単語や表現の意味が理解できない。 ・文章が長いので、概要を読み取ることが難しい。	・よりよく生きることに関連した話題について、何を読むかは、自分で決定することを知らせる。 ・単元の終末に自分の意見を書くことを意識させ、自分の興味・関心のある内容のものを選ぶよう促す。 ・読んだ後に、自分の考えを書くという目的を再認識させ、適した英文を検索させる。状況に応じて、検索方法を指導する。 ・未習の単語は辞書で調べさせる。未習の文法などが含まれる表現については、用法を説明し、意味を捉えさせる。状況に応じて、デジタル機器の翻訳機能の使用を許容する。その際、翻訳機能の有効的な活用方法を指導する。			

記録に残す評価は行わないが、文章の概要や要点を読み取れているかについて、学習状況を確実に見届けて、指導に生かすことは行う。(第一時〜第三時)

	いように、最初から最後まで読む。				
3	<p>○本文を読んで、書き手の主張（要点）を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の説明から要点を捉える際のポイントを理解し、本文を読む。【個別】 ・書き手が最も伝えたいことは何かを考えながら読む。 ・書き手の主張（要点）だと判断した根拠となる英文と判断した理由をワークシートに書き出す。 ・書き手が最も伝えたいことは何かを判断する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー記事やスピーチなどの様々な形式の文章や要点が明示的に伝えられていない文章などを選択しているため、筆者の主張を整理して読み取ることができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの形式に沿った読み方を指導する。 <p>本時案に「想定されるつまずき」と「指導の具体」の詳細あり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの記述を基に、要点を捉えているかを見取る。要点を捉えられていない場合は、個別に生徒と対話を行う。 		
4 5	<p>○書き手の主張（要点）をテーマとして自分の考えなどを書く。【個別】</p> <p>○ペアになり、自分が読んだ内容と自分の考えや気持ちなどを伝え合う。【協働】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・“I think trusting myself is important.” などのように、自分の考えや気持ちだけを書いている。 ・書いた内容にまとまりがなく、相手に伝わりにくい文章になっている。 ・社会的な広い視野からテーマを設定しているため、自 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや気持ち以外に何を伝えたら、説得力のある文章になるかを生徒に考えさせる。（全体で共有） (例) *自分の意見や考えを述べる。 *書き手の主張の根拠となる英文を引用させたり、内容に言及させたりする。 *自分の経験と関連付けさせる。 ・書き手の主張（要点）に対する自分の考えなどを、英文を引用したり内容に言及したりしながら書くように指導する。 ・必要に応じて、ひな形を与えるなど、「書くこと」の活動に対するつまずきを極力軽減する手立てを講じる。 (ひな形の例) I think _____ because _____. ・読み手により伝わりやすくするために、どのような順番で書いたらよいかを生徒に考えさせる。 ・生徒との対話により、テーマと自分との接点を見いだすことができるように指導する。 		<p>記録に残す評価は行わないが、指導に生かすことは行う。また、書いた内容の適切さや正確さについては記録に残す評価は行わないが、より相手に伝わりやすく書くことの指導は行う。</p> <p>記録に残す評価は行わないが、文章の要点を読み取れているかについて、学習状況を確実に見届け</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・質問したりコメントを述べ合ったりする。 ・教師からのフィードバックやペアでやり取りした内容を参考に推敲し、書いた内容を改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> 分の経験と結び付けて考えることができていない。 ・未習の語句や表現を用いているため、ペアの生徒が理解できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真やイラストなどを示しながら話したり、既習の表現に言い換えて説明したりするように指導する。 ・生徒が本文の要点を捉えて自分の考えを書くことができているかを評価し、フィードバックを行う。 			
6	<p>パフォーマンステスト</p> <p>○初見の文章を読み、筆者の主張(要点)を捉え、自分の考えなどを書く。</p> <p>・初見の文章を、第3, 4時で学習した読み方で読み、要点を捉える。(ワークシート)</p> <p>・第5, 6時で学習した表現方法で、自分の考えや気持ちを書く。</p>	<p>評価規準【観点】(評価方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学習した言語材料の特徴やきまりを理解している。 ・これまでに学習した言語材料の特徴やきまりの理解を基に、人物の生き方について書かれた文章の内容を読み取る技能を身に付けている。【知技】(ペーパーテスト) ・よりよく生きるために必要なことについて書かれた英文を読み、自分の意見や考えを伝えるために、英文の要点を捉えている。【思判表】(ワークシート) ・よりよく生きるために必要なことについて書かれた英文を読み、自分の意見や考えを伝えるために、英文の要点を捉えようとしている。【主学態】(活動の観察及びワークシートと振り返りシートへの記述内容) 			○	○
後日	ペーパーテスト			○		

9 単元の中のポイントとなる時間の学習指導案(第3時)

(1) 本時の目標

よりよく生きるために必要なことについて、自分の考えを伝えるために、人々の考え方や生き方に関する英文を読んで、筆者の主張を捉えることができる。

(2) 本時の評価規準

	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
読むこと	よりよく生きるために必要なことについて書かれた英文を読み、自分の意見や考えを伝えるために、書き手の主張(要点)を捉えている。	よりよく生きるために必要なことについて書かれた英文を読み、自分の意見や考えを伝えるために、書き手の主張(要点)を捉えようとしている。

(3) 準備物

ワークシート、人物の生き方や考え方について書かれた資料、デジタル機器(資料検索用)

(4) 学習の展開

過程	学習活動	指導上の留意事項	評価規準 【評価の観点】 (評価方法)
導入	○目標を把握する。		
本時の目標 よりよく生きるために必要なことについて自分の意見や考えを伝えるために、書き手の主張を読み取り、テーマを設定することができる。			
	○要点を捉える読み方のポイントを理解する。	・「要点」を捉える読み方を指導する。 (読み方の例) ・事実と書き手の意見を区別し、整理しながら読む。 ・ In my opinion, ～. や The most important thing is～. などの意見を導く表現を拾いながら読む。	
展開	○書き手の主張(要点)だと判断した根拠となる英文と、判断した理由をワークシートに書き出す。	・ワークシートの記述を基に、要点を捉えているかを見取る。要点を捉えられていない場合は、個別に生徒と対話を行う。	※指導に生かす評価 ・よりよく生きるために必要なことについて書かれた英文を読み、自分の意見や考えを伝えるために、書き手の主張(要点)を捉えている。【思判表】(ワークシート) ・よりよく生きるために必要なことについて書かれた英文を読み、自分の意見や考えを伝えるために、書き手の主張(要
<p>【手立て①】において想定されるつまずき 根拠となる英文を複数挙げており、書き手の主張を整理して読み取ることができていない。</p> <p>【ワークシートの生徒の記述例】</p> <p>○書き手の主張</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ We should act as one single world toward one single goal. ・ We have to make our actions reflect our words. <p>○理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ She worried about environmental destruction. ・ She said “We don’t have all the solutions, so we have to stop destroying nature.” ・ She said “We should share, not be greedy.” 			
<p>指導の具体</p> <p>【ワークシートの記述を基に、個別に生徒と対話を行い、要点を整理する。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この生徒は、書き手が繰り返し主張していることを捉えている。そのことを褒めた上で、それらの主張の共通点は何かを問う。例えば、“act”と“action”が繰り返し使われていることに着目させ、書き手の主張を整理させる。 ・ タイトルにも着目させ、何のために行動を起こすことの必要性を訴えているのかを捉えさせる。例えば生徒が、「何かを変えるためには、実際に行動することが大切」と要点を整理した場合、さらに、「実際に行動に移すときに大切なことは何だと思うか」と問うなどして、書き手の意図のより深い理解を促す。 			

			点) を捉えようとしている。【主学態】(ワークシート)
		<p>【手立て②】において想定されるつまずき</p> <p>インタビュー記事やスピーチなどの様々な形式の文章や未習の表現が多く含まれた長い文章や要点が明示的に伝えられていない文章などを選択しているため、書き手の主張を整理して読み取ることができない。</p>	
		<p>指導の具体</p> <p>【インタビュー記事を選択している場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問者の質問内容から、聞きたいことは何かを推測する。 ・質問に対する答えの中から、その人物が伝えたいことを読み取らせる。 ・複数の質問に対する回答から、全体として、その人物が最も伝えたいことを読み取らせる。 <p>【スピーチを選択している場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピーチが Opening , Body, Closing の構造になっていることに気付かせ、それぞれのまとまりの中で、主に伝えていることは何かを捉えさせるとともに、話し手の主張が含まれている部分に気付かせる。 ・Body に複数の伝えたいことが含まれている場合は、それぞれをキーワードで表して整理させる。(① About “connecting the dots.” ② About love and loss. ③ About death. など) ・事実と意見を区別し、ノートなどに整理させる。 ・繰り返し出てくる言葉や表現は、話し手の伝えたいことと関連していることが多いため、それらに着目させる。 <p>【伝記など、文章が長く、要点が明示的に伝えられていない場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段落ごとに要点(どんな出来事があったか、そのために何をしたか、その結果どうなったかなど)をつかませ、それらをつなげて書き手の主張は何かを考えさせる。 ・一般的に、導入の段落と結論の段落に書き手の主張が含まれていることを検討の手掛かりにさせる。 ・読み手への問いかけがある場合には、それに対する回答に着目させる。 	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・書き手が最も伝えたいことは何かを判断する。 <p>本時の目標に対する振り返りを行う。</p>		